

令和6年第4回定例会委員意見概要及び提言の方向性について

前回（12月9日）の特別委員会において、重点調査項目に関して出された各委員の意見概要は以下のとおりであり、これらの意見を総合し、委員会としての提言の方向性をまとめた。

重点調査項目1 シティプロモーションの推進について (2) 広報ツールを活用した効果的な情報発信について

意見概要		提言の方向性	
①	広報ツールを活用した効果的な情報発信には、ターゲットの明確化に加え、新たなSNSを含めた多様なメディアを通じた発信が重要である。(近藤委員・いしだ委員)	1	【情報一元化等による伝達性の向上】 広報ツールを活用した効果的な情報発信には、ターゲット層の明確化とSNS等の一元化による情報整理に加え、多様なメディアにおいて視覚的工夫を凝らした運用を組織横断的に行う必要がある。とりわけ、多世代において利用されているLINEを活用し、他区の成功事例を基にした情報一元化の仕組みを構築することが重要である。
②	的確な情報発信には、SNSやホームページの一元化による情報整理に加え、視覚的な工夫を凝らした運用を行うべき。(横川委員・いしだ委員・坂田委員)		
③	SNSを活用した情報発信における質と量の向上には、組織横断的に対応できる体制を構築すべき。(小柳委員)		
④	情報過多の時代においては、他区の事例を参考にLINEを活用した情報の一元化を図る仕組みを構築すべき。(大野委員)		
⑤	各広報ツールの特性を把握したうえで目標設定を行い、波及効果について検証すべき。(寺田委員)	2	【効果検証に基づいた情報発信】 魅力的な情報発信に向けては、各広報ツールの特性を把握したうえで目標設定を行い、効果検証に基づいた既存ツールの見直しが必要である。そのためには、インプレッション数等に焦点を当てた分析と検証に加え、UGCの観点や専門家の知見を取り入れ、エンゲージメントの向上に注力すべきである。
⑥	魅力的な情報発信を行うためには、既存するSNSの効果検証に加え、専門家からアドバイスを得られる機会が必要がある。(間中委員・大野委員)		
⑦	区民の参加意識向上に向けては、インプレッション数やエンゲージメント数などに焦点を当て、分析と効果検証を行う必要がある。(坂田委員)		
⑧	相手に伝わる情報発信には、UGCの観点を取り入れることに加え、専門家の知見を活用するとともに、エンゲージメントの向上に注力すべき。(寺田委員)		
⑨	効果的な情報発信には、LINEの活用が重要であり、幅広い年代に友達登録してもらうためにスタンプの配布等に加え、ブロック率の推移を踏まえた取組を展開すべき。(しば委員・おなだか委員)	3	【区公式LINEの利用率向上に向けた取組】 多世代に対する情報発信には区公式LINEを活用することが効果的であることから、友達登録者の増加のためにチャットボット機能の改善に加え、個人情報の管理徹底を行い、直感的で使いやすく安全性の高いツールとすべきである。実現に向けては、スタンプの無料配布やアンケートによる効果検証などの工夫に加え、危機管理意識の向上やブロック率の推移を踏まえた取組の展開が必要である。
⑩	LINEのチャットボット機能においては、直感的に操作ができるような工夫に加え、アンケート等による効果検証を踏まえた改善が必要である。(いしだ委員)		
⑪	LINEの活用においては、個人情報の管理に危機管理意識を持つべき。(坂田委員)		

意見概要		提言の方向性	
⑫	広報活動に関する指針を策定し、長期目線で広報戦略を展開すべき。(間中委員)	4	<p>【魅力認知度の向上に向けた広報戦略】</p> <p>魅力認知度の向上に向けては、長期目線で広報戦略を展開する必要があることから、広報活動に関する指針を定めた上で、公共施設に加え、民間施設や公共交通機関に情報発信拠点を設置し、区の施策に併せて地域団体の活動を広く発信することが重要である。そのためには、広聴活動経費の充実を含めて現場の声を聞く取組に重点を置き、機会を捉えて広報ツールの周知啓発活動を行うなど、見てもらう工夫をすべきである。</p>
⑬	ブランド戦略の推進には、公共の施設や交通機関に加え、民間施設を活用した魅力発信拠点を設置すべき。(間中委員・横川委員)		
⑭	ブランド価値を高めるためには、地域団体の活動を発信し、区民活動を広げていくことが必要である。(間中委員)		
⑮	現場の声を聞く取組に重点を置くとともに、機会を捉えて広報ツールの認知度向上に向けた周知啓発活動を行うなど、見てもらう工夫をすべき。(おなだか委員)		
⑯	効果的な情報発信に向けて予算措置が必要である。(近藤委員・横川委員・おなだか委員)		